平成２９年度特定鳥獣保護管理検討会（第２回）
日時：平成３０年３月２６日（月）
場所：愛知県自治センター　６階　６０２会議室

平成 30 年度第二種特定鳥獣管理計画（イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル）は、了承された。

（委員）

サルの捕獲は、群れの全体をターゲットに捕獲した方が、効果的である。特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（環境省）も参考にしたらどうか。

（事務局）

捕獲数が多い豊川市（平成 28 年度実績 134 頭）では、檻による捕獲、新城市（平成 28 年度実績 132 頭）は、空気銃で捕獲が行われている。捕獲者による捕獲法の違いであるが、空気銃では、群れごとの捕獲は難しい。

今後は、環境省のマニュアルも踏まえて、効果的な捕獲を検討していきたい。

（委員）

資料６のメッシュごとの農業被害の増減と捕獲数の重ね合わせの図は、過去３年間の農業被害の状況を反映して、傾向をつかむことができる。今後は、実績を積み重ね、より長いスパンでの傾向をみていただきたい。

（事務局）

農業被害の増減と捕獲数の重ね合わせは、今回、初めての試みである。今後、市町村が参考にして、効果的な捕獲に活用していただくことを期待している

（委員）

イノシシの捕獲は、成獣と幼獣の区別がされていない。イノシシの数を削減するには、成獣の捕獲が望まれる。

（事務局）

委員の指摘のように成獣の捕獲は重要と考えている。成獣と幼獣を区別した統計は、今後検討したい。

（委員）

一度捕獲に失敗した成獣のイノシシは、その後警戒心が強くなり、簡単にはわなに近づかない。今後は、成獣を中心に捕獲率を高めるような捕獲対策を立てていく必要がある。

（事務局）

先日、連絡協議会において、関係者から意見の聴き取りをした。今後は、これらの意見や農業被害マップ等を参考にしながら、効果的な捕獲方法を考えていきたい。

（委員）

農業被害状況と捕獲状況のマップの重ね合わせはいい試みだと思う。ニホンジカなどは、生息密度が減少しているところもあるようだが、個体が移動している可能性もあることから、今後も調査を続けていただきたい。

（事務局）

市町村によって、農業被害状況の精度に差があるように見受けられた。今後は、調査方法を工夫する等、地域毎の精度に差がでないようにしていきたい。

（委員）

ニホンザルの被害を減らしていくためには、加害個体群を捕獲していくことが重要である。各地域の関係者等から被害状況を聴き取り、加害個体群を特定していく必要がある。

（事務局）

連絡協議会等を活用し、加害個体群を特定していきたい。

（委員）

鳥獣被害を減らしていくためには、専門家の育成が必要。行政機関、農業者、狩猟者それぞれの立場で、農業被害等に対する認識を高め、専門的な知識を習得していくべき。

（事務局）

研修等を活用して、知識、技術の向上に努めていきたい。